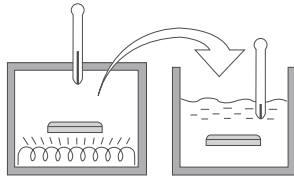
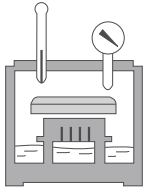


耐熱衝撃性



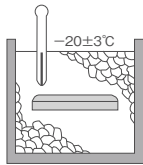
熱したオープンから110℃以上の温度差のある清水中に入れ、割れ、貫入などの欠点があるかどうか目視観察。急激な温度変化による熱衝撃で、異常が生じないかを確認する試験です。カウンタートップのような局所的な熱衝撃を受ける箇所に使用するときのタイルに適用されます。

耐貫入性



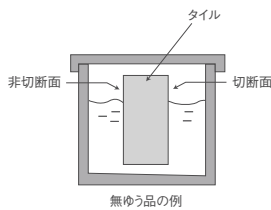
1MPaの圧力のオートクレープのなかに1時間施釉タイルを保持し、冷やしてから取り出し、タイルに貫入が生じたかどうかを目視観察。長年の使用で、施釉面に貫入が生じないかを確認する試験です。装飾のために貫入を施したタイルには適用しません。

耐凍害性



清水中で自然吸水させたタイルを、凍結状態と散水で融解させた状態（気中凍結気中融解法）とを100回繰り返します。タイルの表面、裏面、端部に、ひび割れ、素地またはうわぐすりのはがれなどの欠点が生じていないか目視観察します。凍害を受ける恐れのある場所に使用するタイルに適用します。

耐薬品性

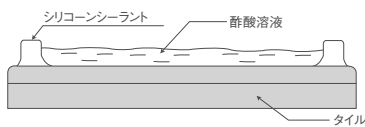


塩化アンモニウム、次亜塩素酸ナトリウム、塩酸、くえん酸、水酸化カリウムなどの薬品溶液にタイルの約半分を漬けます。その後、漬けた部分と漬けない部分を比較し、クラス分類します。

切断面、非切断面、表面の有無の変化	クラス
変化が認められない	A
切断面だけ変化が認められる	B
切断面、非切断面、表面に変化が認められる	C

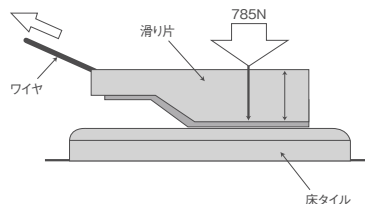
施釉タイルでは切断面の観察は行いません。

鉛およびカドミウムの溶出性



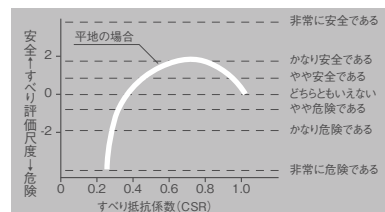
施釉タイルの表面に酢酸溶液を24時間置き、溶出した鉛およびカドミウムの量を原子吸光分析装置で測定します。規格値はありません。食物が直接接する箇所に使用される施釉タイルに適用します。

耐滑り性



タイルの表面に泥水（濃・淡）やタルクの試験液をまいて、785Nの鉛直荷重をかけた滑り片を斜め上方に引っ張り、滑らせたときの抵抗（引張り荷重）を鉛直荷重で除して求めます。基準値はありません。土足歩行の場合はC.S.R、素足歩行の場合はC.S.R・Bを測定します。水ぬれする場所の床に使用するタイルの耐滑り性について適用します。

靴を履く領域



素足の領域

